

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300660		
法人名	有限会社 アットホーム		
事業所名	アットホーム三谷 3F		
所在地	愛知県蒲郡市三谷北通4-117-1		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2373300660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所名のとおり、家庭的な環境でそれぞれのペースで過ごして頂いている。家庭同様の季節感を味わって頂くために、年2回は、盛大な夏祭りや忘年会を開催しノンアルコールビールや普段と違う食事メニューで気分転換を図って頂いている。ご家族、親戚との繋がりを大切にと、毎月のお便りのほかに、ご自身の手書きの年賀状を出している。
 細やかな健康観察、基本的な水分摂取、排泄チェックを確実にし、健康管理に注力している。利用者様やご家族様と連携をとり、希望に沿った生活を送っていただきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

《感染症感染対策により、電話でのヒアリングに代えて実施した》
 ホームでは、利用者が家庭的な暮らしが出来るように支援している。理念として掲げるアットホームな環境づくりに努め、利用者個々のペースに合わせた支援を提供している。職員間で情報を共有し、一貫性のある支援の提供に注力している。
 夏祭りや忘年会・クリスマス会などでは特別メニューが振舞われ、ノンアルコールビールの提供もある。食事は楽しみの一つとなっており、普段の食事もおいしいと高評価を得ている。
 管理者と職員は利用者本位の支援の提供に努め、利用者が家庭的な暮らしが出来るよう日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識しながら振り返る時間を持ち、地域の住人として暮らし、職員もその家族のつもりで家庭的な環境を作るよう心掛けている。	ホームが掲げる理念は事業所内に掲示している。定期的に行われるミーティングで振り返りの機会を設け、職員に理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老の日には、常会よりお祝いを頂いている。 近所の散歩、氏神様への初詣、買い物等、この地域での日常的な暮らしをして頂いている。	ボランティアの受け入れ中止や、面会制限はまだある現状である。その中で地域の常会とのかかわりや、利用者の散歩や買い物・初詣などの機会に、地域住民等と交流を図っている。	外出や馴染みの関係継続への取り組みと同様に、今後の課題の一つとして提案したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の避難所として認識してもらい、見学にきていただきたい。認知症の人の暮らしを見てもらいたい。草取りには参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ、その他の感染症のため、書面で報告している。意見を頂けない分、こまめな連絡や報告を行うように努めている。	ホームの取り組みや利用者の様子を書面で報告している。議事録配布先からの反応は薄い。意見や提案を頂けるように、電話等で密な連絡を行うように努めている。	配布する議事録に返信用の書式を付ける、などの工夫も必要であろう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	身寄りのない利用者が困らないよう、担当者と連携をとりNPO法人などの入会をサポートしている。 協力関係が築けている。	生活保護受給者や後見人制度利用者の入居があり、行政担当課や地域包括支援センターとの連携がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について周知し、実践している。 危険を伴う可能性がある利用者様にたいしては、一時的に玄関の施錠をする場合がある。	身体拘束廃止に向け、年2回勉強会を開催している。又、新人研修時にも議題に挙げて指導している。スピーチロックについては、管理者による随時OJTによる指導がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を設け、心理的な虐待にもなっていないかなど、普段から確認をしている。日常的に認識に誤解や甘さがないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない利用者様が多いこともあり、社会福祉協議会やNPO法人の支援を受けている方が多いため、学びの多い環境になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族に十分説明し、リスクなどについても、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催した際には、包括センター職員や長寿化職員との質疑応答をして頂き、ご家族にも意見や質問をいただいている。	利用者や家族からの意見や要望を把握するために、面会時に話を聞いたり、ホームの取り組みや利用者の状況を報告している。面会については今年4月より、制約を緩和する方向で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日ごろからコミュニケーションを持ち、意見や提案をし合い、相談し合える関係が築けていると思う。	毎月のミーティングや日常の中で、職員の提案や意見を聞いている。把握した提案や意見は記録され、必要に応じ検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員全員について把握されている。それぞれに配慮した労働時間を保っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の法人への研修はここ数年、感染症対策のため出来ていない。認知症介護基礎研修についてはサポートしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけそのような機会を設けるよう心掛けているが、人手不足で思うようにいけないのが実情。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からもしっかり話を聞き、初めのうちは連絡をとりあい、相談しながら支援の方法などについて考えていくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにコミュニケーションをとり、ご家族の立場に立って支援させていただいている。不安や困りごとについて傾聴し、その積み重ねにより信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としていることを見極め、固定観念にとらわれないよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという環境について職員がしっかり認識し、職員も家族の一員として生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族との繋がりで、きもちが満たされるように、職員もそのような関係を築きたい。日ごろから、些細なことでも連絡、相談し安心して生活していただけるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日ごろから、懐かしい話や家族の話など何気ない会話を持つよう努めている。買い物、外出など出来る限り支援している。	家族への年賀状や家を見に行くなど、家族との関係が希薄にならないように支援している。カラオケなどの趣味や入居前からの習慣を把握し、継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮や、会話の中での何気ない仲裁など、職員が気を配っている。孤立することのないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩し、入退院を繰り返されるなかでも、家族とゆっくり話をし相談や支援をさせていただいている。また回復すれば再入所したいと言っている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から多くの会話を持ち利用者の要望など把握するよう努めている。	利用者との日常の関わりの中で、思いや意向を把握するように努めている。把握した意向や思いは業務日誌や状況書に記録し、職員間で共有、検討している。又、アセスメントも更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの暮らし方などは、しっかり把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのペースで過ごして頂けるよう努めている。体調、性格、状態を把握し出来る限り希望に沿うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とも連携をとり、希望する支援方法などを反映した介護計画をたてている。携わる職員とも日ごろから、しっかり相談し意見を活かしている。	利用者に提供されるサービスは、3か月毎のモニタリングで評価を行っている。又、カンファレンス等で検討して、見直し・更新される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、健康に関することから行動、状態についても情報共有し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた対応が出来るよう努めている。受診同行、衣類の買い物など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員が心身の力を発揮するとは言い切れないが出来る限り豊かな暮らしを送ってもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力医の往診、検査を受けている。家族や本人の希望により、家族受診をお願いしている。	協力医の月2回の訪問診療がある。歯科や専門診療科への受診は、原則として家族対応となっているが、状況によってはホームで対応することも可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員はしっかりと連携が取れている。情報は正確に記録し看護師に相談できている。受診、往診に活用できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変により入院があってもスムーズな情報提供ができる。退院支援や相談を受ける信頼関係は築けていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を普段の会話の中からくみ取り、失礼のないよう支援できるように心掛けている。ACP(人生会議)を意識しつつ、一人ひとりの考えを大切にできるよう取り組むよう注力している。	看取り指針があり、入居時に説明している。重度化が認められればその都度話し合い、他施設への移行を支援するなど、利用者やその家族にとって最善となるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による指導は受けているが、いざという時には慌ててしまう職員もいると思われる。実践力が付くよう訓練を重ねる必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認はできている。福祉避難所の指定を受け入れ、地域との協力体制を築いているがどの程度周知されているかは不安がある。	年に2回の避難訓練が、併設のデイサービスと合同で行われている。BCPも作成されており、非常時の対応は職員に周知されている。福祉避難所の指定を受けており、地域との協力体制も構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、常日頃から研修を重ね、指導を行っているが、完璧とは言えないのが現状。 人格の尊重とプライバシーの確保することに努めたい。	利用者と職員の関わりの中で、声掛けには注意を払っている。利用者のプライバシーやプライドを尊重し、羞恥心にも配慮した対応に努めている。ミーティング時に学ぶ機会を設け、指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「家に帰りたい」、「〇〇が食べたい」「散歩にいきたい」など自由に発言をされることを、支援できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スタイルは無理強いすることはないが、入浴時間、食事時間等は決まっている。状態によりその方のペースで過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、服を着替え、身だしなみに時間をかけられる方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房があるため、調理することはないが、片付け、テーブル拭き、洗い物は一緒に行うようにしている。	利用者の残存能力を活かすよう、出来ることを任せている。季節や行事に因んだメニューを提供しており、月に1回、イベントとしておやつなどを一緒に作る取り組みもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は、時間を決めて提供し脱水に注意している。食事形態はそれぞれに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。義歯にも歯ブラシをあて、入れ歯洗浄剤で消毒している。うがい薬を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の間隔などはそれぞれのパターンを把握し行っている。夜間のみポータブルトイレを使用するなど状態に合わせている。	トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。利用者の状態により、適切な排泄用品や介助方法を検討し、利用者個々に合わせた支援を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは、しっかりできている。飲食物や運動で改善しない場合には、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	フロアにある浴室を希望されればある程度は希望に沿うことができる。ほとんどの方が大浴場を希望されるため、その場合は時間が決まっている。	週3回の入浴を支援している。利用者のほとんどが、併設事業所にある大浴場を希望している。ゆず湯やしょうぶ湯の提供もあり、入浴が楽しみの一つとなっている。入浴拒否もあるが、声掛けのタイミングや誘い方を工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室へは自由にいつでも行き、休息していただいよい。季節に合った寝具の入れ替えなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルや健康状態につて、常に観察、申し送りを行っている。それぞれがどのような薬を服用しているか理解し、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しでも楽しみや気分転換をして頂けるよう、定期的なイベントを開催し、利用者の希望を反映するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期には、散歩やドライブをしている。家族との、外出も支援している。	利用者の要望に応え、買い物や周辺の散歩を支援している。併設のデイサービスの協力を得てドライブに出かけることもある。今後の取り組みとして、遠出などの計画外出も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方には、家族の協力のもとで所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や年賀状のやりとりをしている。普段は忘れていた様子の方でも、家族と話しながら涙ぐむ姿も見られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、洗面所付近では職員が立ち会い、混乱や危険のないよう配慮している。共有スペースでは季節感のあるものを飾り、室温などにも配慮し、居心地よく過ごしてもらえるようにしている。	電話ヒアリングに代えて実施したため、視察出来ていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、席の配慮をし、気の合った利用者と過ごせるように配慮している。ソファでくつろぐなど自由にいただいている。パズルや数字合わせなど自由に使用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいように、入所の際に家族に協力いただき、使い慣れたものや居心地の良いスペースになるよう工夫している。じゅうたんを敷くなど。(防火素材)	電話ヒアリングに代えて実施したため、視察出来ていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に環境をつくっている。人により大差はあるが自由に自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300660		
法人名	有限会社 アットホーム		
事業所名	アットホーム三谷 2F		
所在地	愛知県蒲郡市三谷北通4-117-1		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2373300660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所名のとおり、家庭的な環境でそれぞれのペースで過ごして頂いている。家庭同様の季節感を味わって頂くために、年2回は、盛大な夏祭りや忘年会を開催しノンアルコールビールや普段と違う食事メニューで気分転換を図って頂いている。ご家族、親戚との繋がりを大切にと、毎月のお便りのほかに、ご自身の手書きの年賀状を出している。
 細やかな健康観察、基本的な水分摂取、排泄チェックを確実にし、健康管理に注力している。利用者様やご家族様と連携をとり、希望に沿った生活を送っていただきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識しながら振り返る時間を持ち、地域の住人として暮らし、職員もその家族のつもりで家庭的な環境を作るよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老の日には、常会よりお祝いを頂いている。 近所の散歩、氏神様への初詣、買い物等、この地域での日常的な暮らしをして頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の避難所として認識してもらい、見学にきていただきたい。認知症の人の暮らしを見てもらいたい。草取りには参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ、その他の感染症のため、書面で報告している。意見を頂けない分、こまめな連絡や報告を行うように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	身寄りのない利用者が困らないよう、担当者との連携をとりNPO法人などの入会をサポートしている。 協力関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について周知し、実践している。 危険を伴う可能性がある利用者様にたいしては、一時的に玄関の施錠をする場合がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を設け、心理的な虐待にもなっていないかなど、普段から確認をしている。日常的に認識に誤解や甘さがないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない利用者様が多いこともあり、社会福祉協議会やNPO法人の支援を受けている方が多いため、学びの多い環境になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族に十分説明し、リスクなどについても、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催した際には、包括センター職員や長寿化職員との質疑応答をして頂き、ご家族にも意見や質問をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日ごろからコミュニケーションを持ち、意見や提案をし合い、相談し合える関係が築けていると思う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員全員について把握されている。それぞれに配慮した労働時間を保っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の法人への研修はここ数年、感染症対策のため出来ていない。認知症介護基礎研修についてはサポートしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけそのような機会を設けるよう心掛けているが、人手不足で思うようにいけないのが実情。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からもしっかり話を聞き、初めのうちは連絡をとりあい、相談しながら支援の方法などについて考えていくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにコミュニケーションをとり、ご家族の立場に立って支援させていただいている。不安や困りごとについて傾聴し、その積み重ねにより信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としていることを見極め、固定観念にとらわれないよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという環境について職員がしっかり認識し、職員も家族の一員として生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族との繋がりで、きもちが満たされるように、職員もそのような関係を築きたい。日ごろから、些細なことでも連絡、相談し安心して生活していただけるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日ごろから、懐かしい話や家族の話など何気ない会話を持つよう努めている。買い物、外出など出来る限り支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮や、会話の中での何気ない仲裁など、職員が気を配っている。孤立することのないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩し、入退院を繰り返されるなかでも、家族とゆっくり話をし相談や支援をさせていただいている。また回復すれば再入所したいと言っている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から多くの会話をもち利用者の要望など把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの暮らし方などは、しっかり把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのペースで過ごして頂けるよう努めている。体調、性格、状態を把握し出来る限り希望に沿うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とも連携をとり、希望する支援方法などを反映した介護計画をたてている。携わる職員とも日ごろから、しっかり相談し意見を活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、健康に関することから行動、状態についても情報共有し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた対応が出来るよう努めている。受診同行、衣類の買い物など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員が心身の力を発揮するとは言い切れないが 出来る限り豊かな暮らしを送ってもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力医の往診、検査を受けている。家族や本人の希望により、家族受診をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員はしっかりと連携が取れている。情報は正確に記録し看護師に相談できている。受診、往診に活用できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変により入院があってもスムーズな情報提供ができる。退院支援や相談を受ける信頼関係は築けていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を普段の会話の中からくみ取り、失礼のないよう支援できるように心掛けている。ACP(人生会議)を意識しつつ、一人ひとりの考えを大切にできるよう取り組むよう注力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による指導は受けているが、いざという時には慌ててしまう職員もいると思われる。実践力が付くよう訓練を重ねる必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認はできている。福祉避難所の指定を受け入れ、地域との協力体制を築いているが どの程度周知されているかは不安がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、常日頃から研修を重ね、指導を行っているが、完璧とは言えないのが現状。 人格の尊重とプライバシーの確保することに努めたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「家に帰りたい」、「〇〇が食べたい」「散歩にいきたい」など自由に発言をされることを、支援できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スタイルは無理強いすることはないが、入浴時間、食事時間等は決まっている。状態によりその方のペースで過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、服を着替え、身だしなみに時間をかけらる方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房があるため、調理することはないが、片付け、テーブル拭き、洗い物は一緒に行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は、時間を決めて提供し脱水に注意している。食事形態はそれぞれに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。義歯にも歯ブラシをあて、入れ歯洗浄剤で消毒している。うがい薬を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の間隔などはそれぞれのパターンを把握し行っている。夜間のみポータブルトイレを使用するなど状態に合わせている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは、しっかりできている。飲食物や運動で改善しない場合には、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	フロアーにある浴室を希望されればある程度は希望に沿うことができる。ほとんどの方が大浴場を希望されるため、その場合は時間が決まっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室へは自由にいつでも行き、休息していただいいてよい。季節に合った寝具の入れ替えなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルや健康状態につて、常に観察、申し送りを行っている。それぞれがどのような薬を服用しているか理解し、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しでも楽しみや気分転換をして頂けるよう、定期的なイベントを開催し、利用者の希望を反映するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期には、散歩やドライブをしている。家族との、外出も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方には、家族の協力のもとで所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や年賀状のやりとりをしている。普段は忘れていた様子の方でも、家族と話しながら涙ぐむ姿も見られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、洗面所付近では職員が立ち会い、混乱や危険のないよう配慮している。共有スペースでは季節感のあるものを飾り、室温などにも配慮し、居心地よく過ごしてもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、席の配慮をし、気の合った利用者と過ごせるように配慮している。ソファでくつろぐなど自由にしている。パズルや数字合わせなど自由に使用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいように、入所の際に家族に協力いただき、使い慣れたものや居心地の良いスペースになるよう工夫している。じゅうたんを敷くなど。(防火素材)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に環境をつくっている。人により大差はあるが自由に自立した生活が送れるよう支援している。		